全国農業協同組合連合会酪農部発行

酪農のなかまに体験発表会

が取り上げられました。

特集

第34回全農酪農経営体験発表会開催

JA全農は、9月16日、東京都港区のコクヨホールで「第34回全農酪農経営体験発表会」を開催しました。

本発表会は、農協・経済連・全農県本部が推薦する優秀な酪農経営者を選定・表彰し、その経営内容・経営技術等の成果を広く紹介することで、酪農経営の安定発展に役立てることを目的としています。

数々の審査を経て発表会の日を迎えた6名の酪農家が、北海道から沖縄まで日本各地それぞれの気候風土・立地条件の中で創意工夫をこらした先進的な経営を発表しました。

最優秀賞は北海道の高橋守さん

全農酪農経営体験発表会では、全国各地から応募された作品を対象に書類審査を2回、現地審査を1回実施し、その結果、選ばれた6作品が会場で発表されます。

小林信一審査委員長は冒頭の挨拶で「今回も日本全国から非常に選りすぐりの、そして特徴のある経営をされている経営者が集まりました。それぞれの事例を拝聴していただいて、皆様のご苦労や地域のサポートを感じていただければ」と話しました。

厳正な書類審査、そして当日の発表の結果、6次化の成功と、ご自身の牧場を核として地域酪農を支えようとする姿勢・努力が高く評価された北海道・高橋守さんの作品「牛と大地と私たちが、一つになって、ニセコの恵みを届ける牧場へ」が最優秀賞を受賞しました。各発表者の経営概要と審査講評は本誌4ページでご紹介しています。高橋さんは「私がここにいるのは、本当に迷った時にアドバイスをしてくれた人がいたから。人生の中で確認できる人がいることは本当に幸せなことです。自分が今、まわりから確認される立場になったことに責任を感じています。これからも、今回の受賞を励みに、一歩一歩前進していきたい」と抱負を語りました。

「皆様のご苦労や地域のサポートを感じていただければ」と小林信一審査委員長

「地域の皆さんとご家族が結集して本当に立派な経営を実現」と全農・小原良教常務理事

「お世話になった人に恩返しできるように頑張りたい」と高橋守さん。

最優秀賞は北海道・高橋守さん・夏弓さんご夫妻「牛と大地と私たちが一つになって、ニセコの恵みを届ける牧場へ」

審査の結果を待つ6名の優秀な酪農家

賞状とトロフィーを手にする高橋さんご夫妻

酪農の夢コンクールへのこれまでの貢献に対して特別賞が贈呈された（写真は名岩産業高校）

岩手県の久保淳さん、滋賀県の山田保高さん、青森県の橋本拓也さんが受賞しました。

発表者と学生が交流を深めた座談会

酪農経営体験発表会と併せて開催された、第10回「全農学生『酪農の夢』コンクール」の最優秀賞作品発表・表彰式では、益崎裕朗さん（熊本県立菊池農業高等学校）に「地域の酪農リーダーを目指して」をご披露いただきました。

また、平成19年に酪農経営体験発表会が第25回を迎えたことを記念して始まった本コンクールも、今回で第10回という節目を迎えました。そこでこれまでコンクールに大きな貢献をしてきた北海道名寄産業高等学校、神奈川県立相原高等学校の2校に特別賞が贈られました。

表彰式の後は、益崎さんほか2人の優秀賞受賞者を壇上にお招きし、審査員の永木先生も交えて座談会を実施。学生が夢の実現に向けて抱えている疑問について、体験発表会に出品した6名の酪農家にお答えいただきました（益崎さんの作品や座談会の模様は本誌7ページでご紹介します）。

発表会の最後に全農・小原常務理事は、「酪農経営者の皆様が志をもって進めてきた試みとその成果をご理解いただければ幸い。経営者の皆様には引き続き地域のリーダーとしてがんばっていただきたい」と発表会の感想を述べるとともに、酪農の夢コンクールについても「若い皆さんの夢とやる気に触れ、日本の酪農界に一筋の光が差し込んだような想い。本日ここにいるリーダーをめざしてがんばってほしい。いつかこの場所に来ることを待っています」と学生に熱いエールを贈り、発表会を締めくくりました。

学生が抱えている疑問に酪農家が答える座談会